

中小企業景況調査結果（平成18年度第4・四半期）

平成19年3月26日
富山商工会議所情報課

1. 調査結果の概要

業種	事業所数	回収数	回収率
建設業	80	59	63.3%
製造業	80	58	
卸売業	80	49	
小売業	80	40	
サービス業	80	47	
合計	400	253	

- 調査実施期間 平成19年3月1日(木)～14日(水)
- 調査対象期間 平成19年1月～3月期実績(1～2月は実績、3月は予想)及び平成19年4～6月期見通しについて調査した。
- 調査方法 経営指導員の配付・回収、郵送による配付・FAX又はインターネットによる回収。

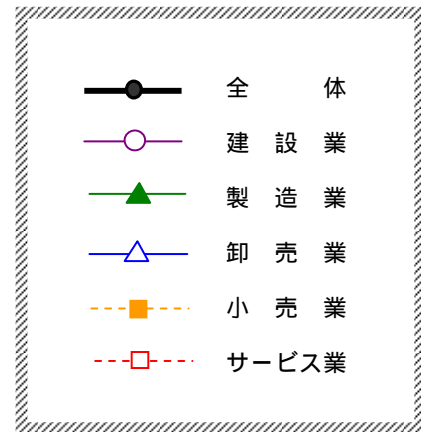
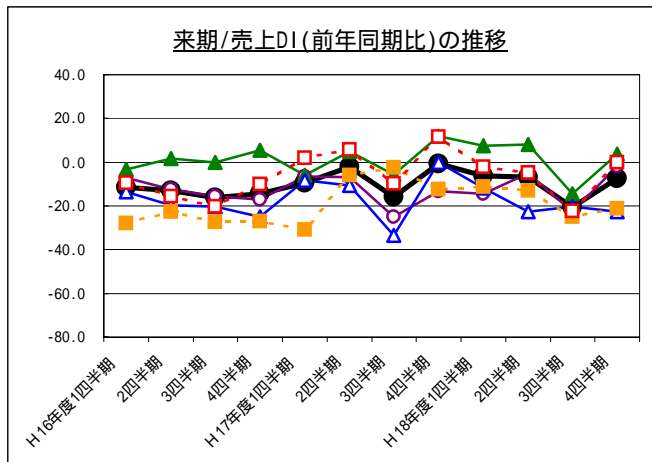
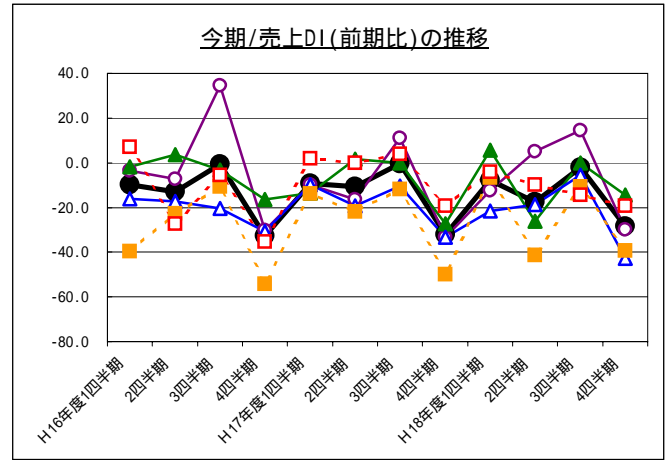
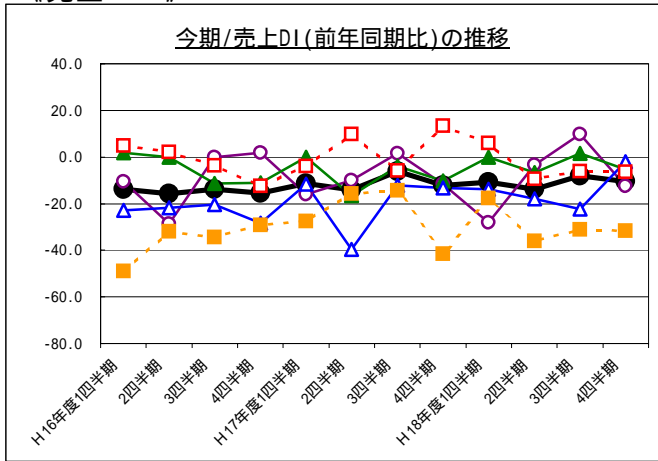
2. 要約

- 今期の景況** 前年同期比は前年度と同傾向、前期比は年度中で最も悪化。
 今期(19年1～3月期)は、前年同期比では、売上、採算などの各DIは Δ 21～ Δ 10と、それぞれ1～2ポイント低下又は1ポイント上昇という前年度と同傾向にある。前期比ではすべてのDIが悪化し、各DIは Δ 28～ Δ 24と、平成14年度調査開始以来の毎年度で第4四半期が最も悪化する傾向が続いている。
 業種別に見ると、前年同期比では、卸売業ですべてのDIがマイナス幅を縮小し、特に売上DIは20ポイント上昇と、調査開始から最も改善した。前期比では、建設業で各DIが28～44ポイント低下し、大きくマイナス幅を拡げている。
- 来期の見通し** すべてのDIで改善傾向。
 来期(19年4～6月期)の見通しについては、すべてのDIが8～13ポイントの上昇となり、各DIは Δ 17～ Δ 7と改善傾向にある。
 業種別に見ると、建設業で売上DIが20ポイント上昇し、これまでで最もマイナス幅を縮小した。又、製造業の各DIは12～18ポイント上昇、サービス業の各DIも12～26ポイント上昇し、ともに大きく改善している。

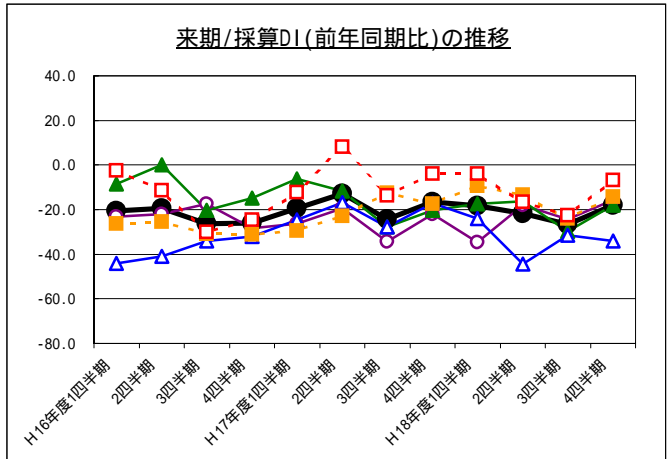
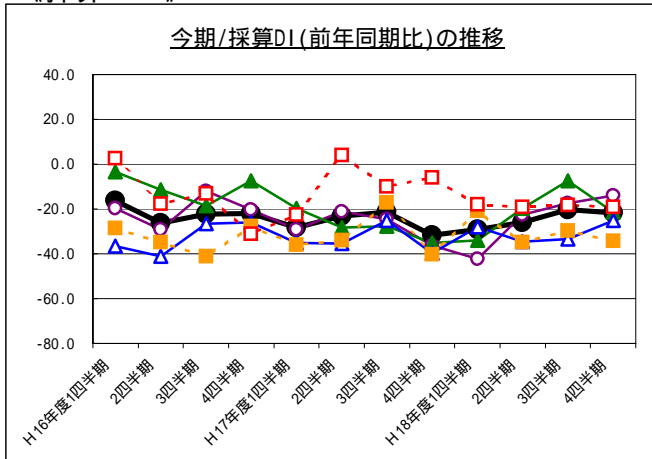
		今期の景況(19年1～3月)						来期の見通し(19年4～6月)			
		前年同期比と比べて			前期比と比べて			前年同期比と比べて			
		今回DI	前回DI	差	今回DI	前回DI	差	今回DI	前回DI	差	
全 体	売上	-10.6	-8.2	-2.4	-28.3	-2.1	-26.2	-7.3	-20.6	13.3	
	採算	-21.8	-20.4	-1.5				-17.9	-26.6	8.7	
	業況	-17.5	-18.5	1.0	-27.1	-16.5	-10.6	-14.8	-23.3	8.5	
	資金繰り	-15.4	-16.5	1.1	-24.6	-18.0	-6.6	-13.8	-22.1	8.3	
	建設業	売上	-12.5	9.7	-22.2	-29.9	14.6	-44.5	-1.8	-22.6	20.8
		採算	-14.1	-17.5	3.4				-15.8	-24.2	8.4
		業況	-19.7	-9.6	-10.1	-32.1	-3.3	-28.8	-12.5	-15.9	3.4
		資金繰り	-16.4	-4.9	-11.5	-32.8	-3.2	-29.6	-16.4	-17.5	1.1
	製造業	売上	-5.4	1.5	-6.9	-14.3	0.0	-14.3	3.6	-14.5	18.1
		採算	-21.5	-7.5	-14.0				-17.9	-29.9	12.0
		業況	-5.4	-3.0	-2.4	-12.8	-10.5	-2.3	-7.5	-22.4	14.9
		資金繰り	-5.4	-11.8	6.4	-14.3	-16.2	1.9	-3.6	-22.1	18.5
	卸売業	売上	-2.1	-22.3	20.2	-42.9	-5.6	-37.3	-22.5	-20.4	-2.1
		採算	-25.0	-33.4	8.4				-34.1	-31.5	-2.6
		業況	-25.0	-33.4	8.4	-39.6	-24.6	-15.0	-33.4	-30.2	-3.2
		資金繰り	-16.7	-20.4	3.7	-23.0	-27.8	4.8	-21.3	-27.8	6.5
小売業	売上	-31.6	-31.3	-0.3	-39.5	-10.6	-28.8	-21.1	-25.0	3.9	
	採算	-34.3	-29.8	-4.5				-14.3	-23.9	9.6	
	業況	-32.4	-36.2	3.8	-37.9	-18.6	-19.3	-20.6	-21.3	0.7	
	資金繰り	-25.7	-30.4	4.7	-29.4	-31.1	1.7	-17.1	-19.1	2.0	
サービス業	売上	-6.4	-6.1	-0.3	-19.1	-14.3	-4.9	0.0	-22.4	22.4	
	採算	-19.1	-18.4	-0.8				-6.7	-22.4	15.8	
	業況	-10.9	-18.4	7.5	-18.2	-31.3	13.1	-2.3	-28.6	26.3	
	資金繰り	-17.4	-20.8	3.4	-25.5	-16.7	-8.9	-13.0	-25.0	12.0	

(注)DIとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

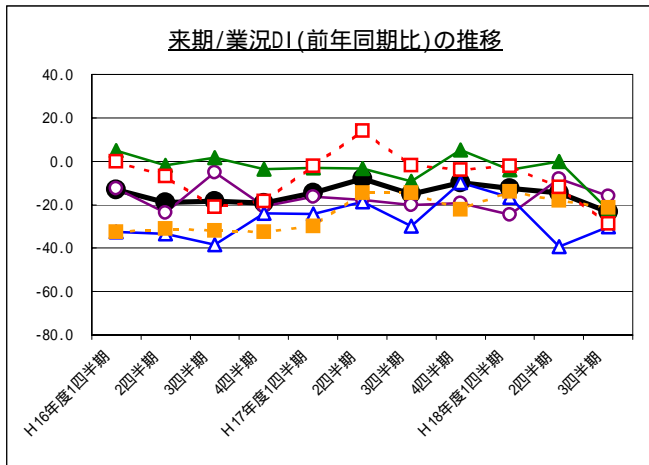
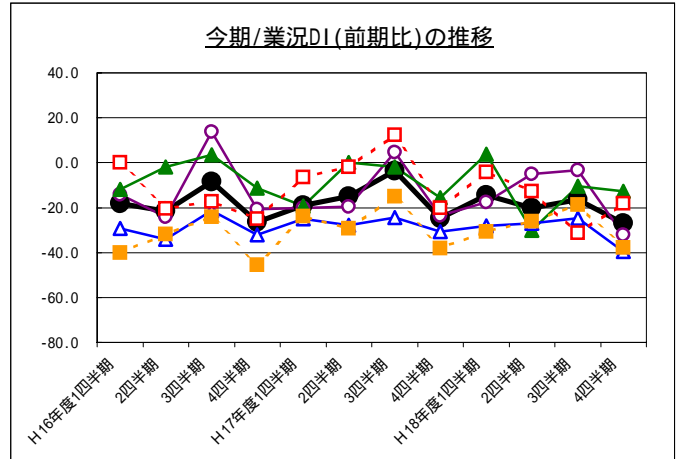
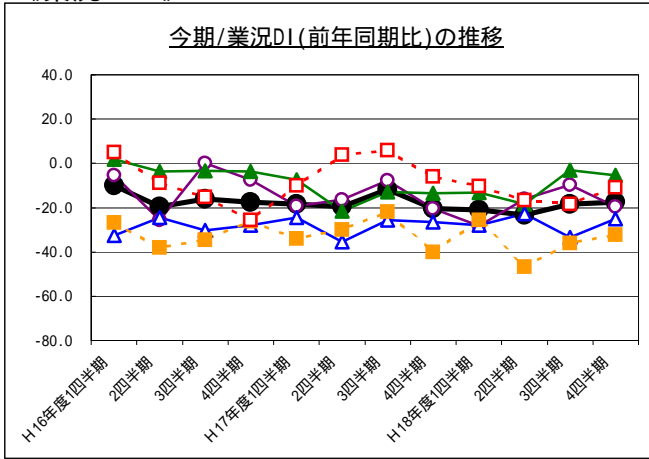
《売上DI》



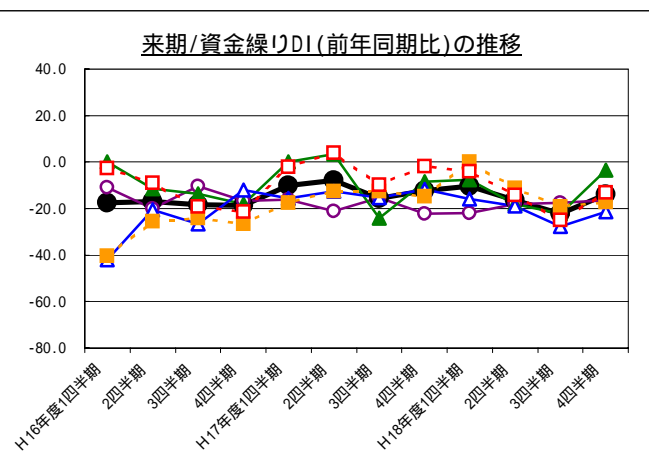
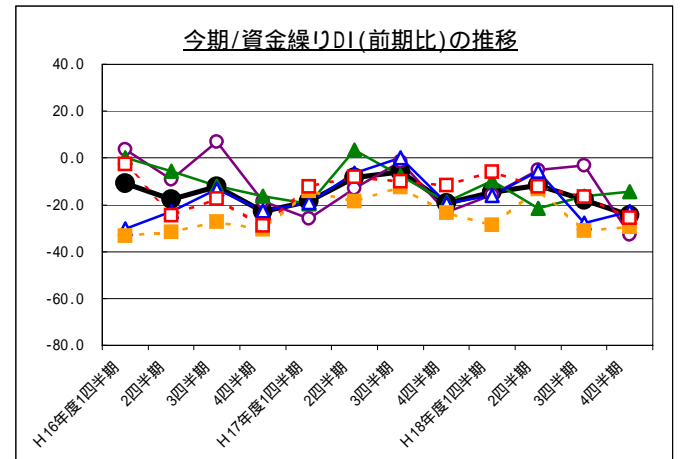
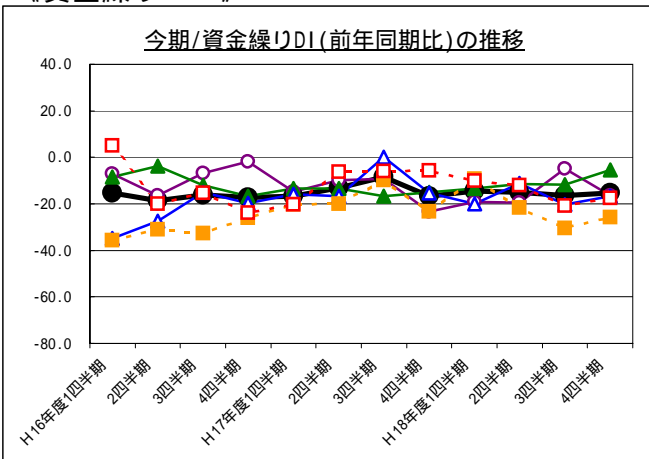
《採算DI》



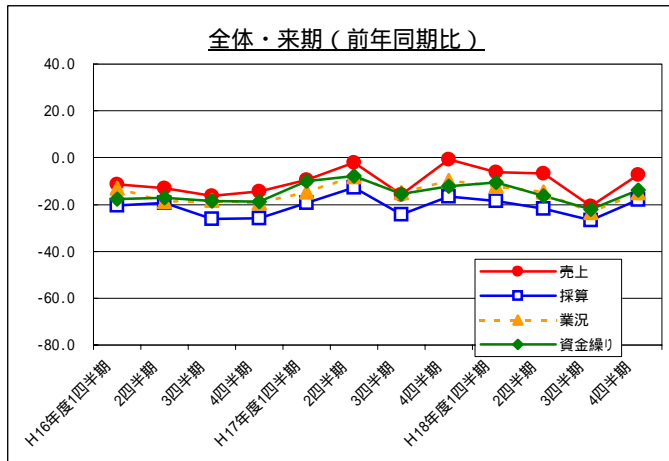
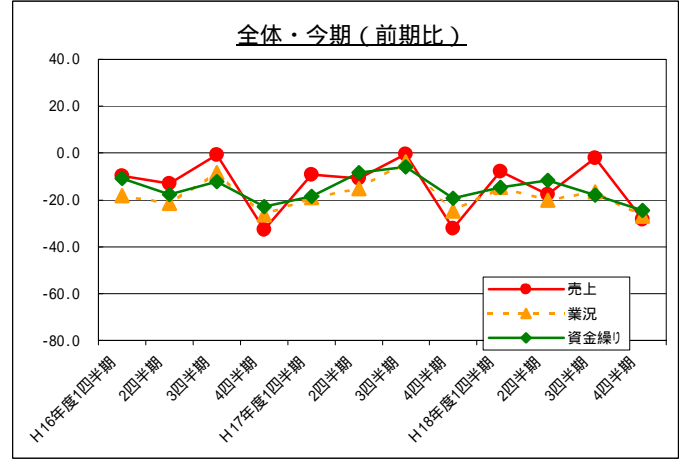
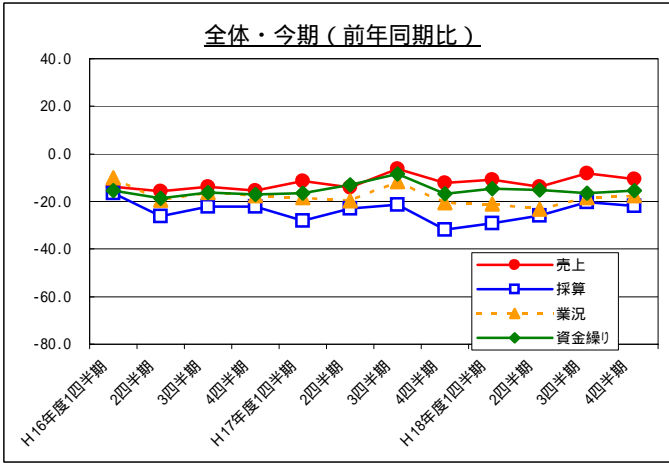
《業況DI》



《資金繰りDI》



《ご参考》

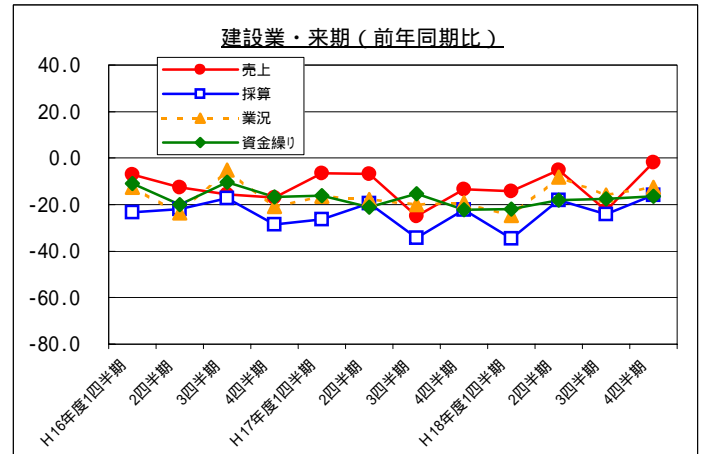
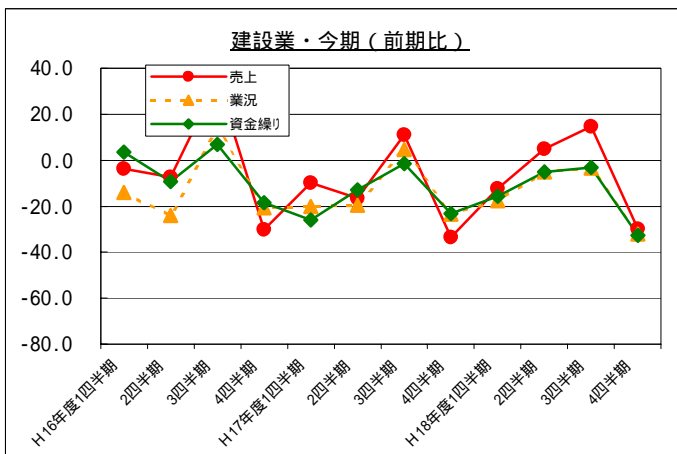
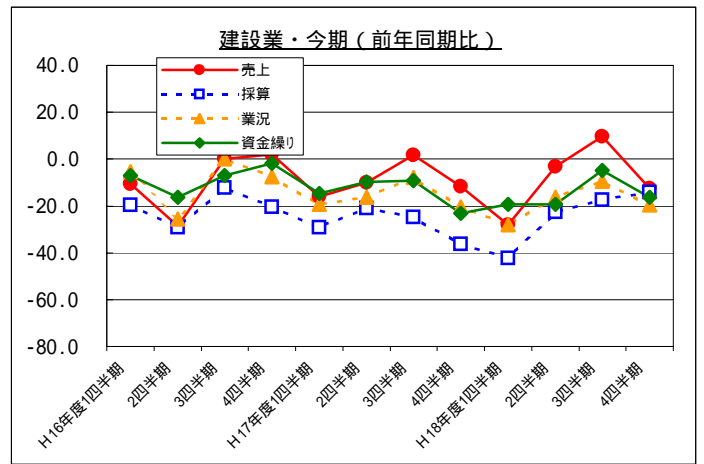


3. 業種別比較

(1) 建設業

今期は、前年同期比で、採算DIがやや改善しているが、他のDIは10～22ポイントの悪化となった。前期比では、改善傾向が続いていたすべてのDIが28～44ポイントと大きく低下し、各DIはマイナス32～マイナス29となっている。

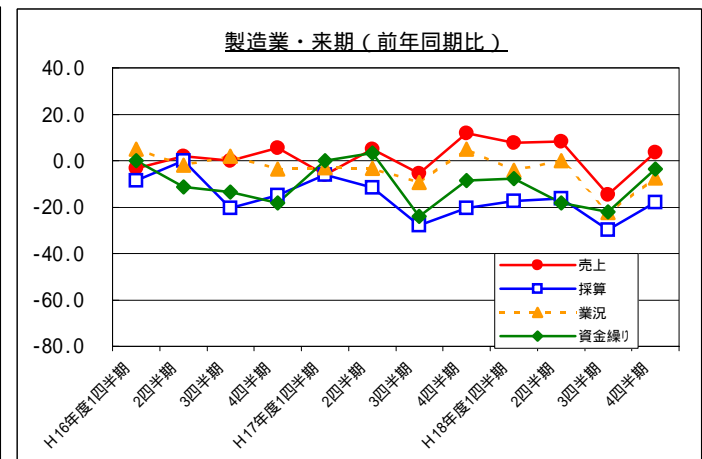
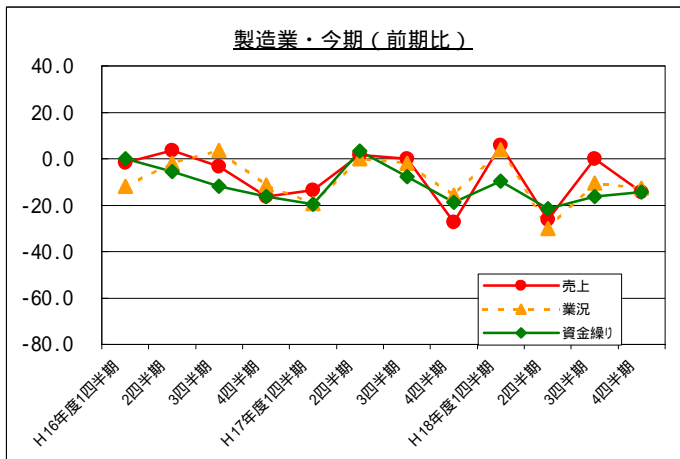
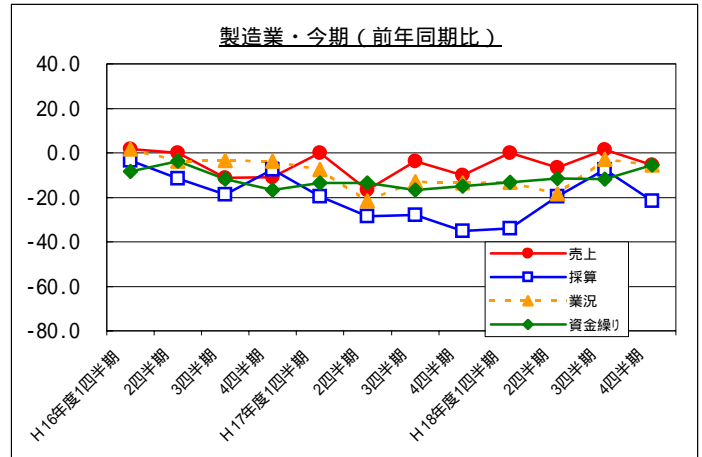
来期の見通しでは、すべてのDIが改善傾向となり、特に、売上DIは20ポイント上昇のマイナス1と、調査開始から最も改善している。



(2) 製造業

今期は、前年同期比・前期比ともに、資金繰りDIは改善傾向にあるが、他DIが2～14ポイントのマイナス幅拡大となり、各DIは、前年同期比ではマイナス21～マイナス5、前期比ではマイナス14～マイナス12となった。

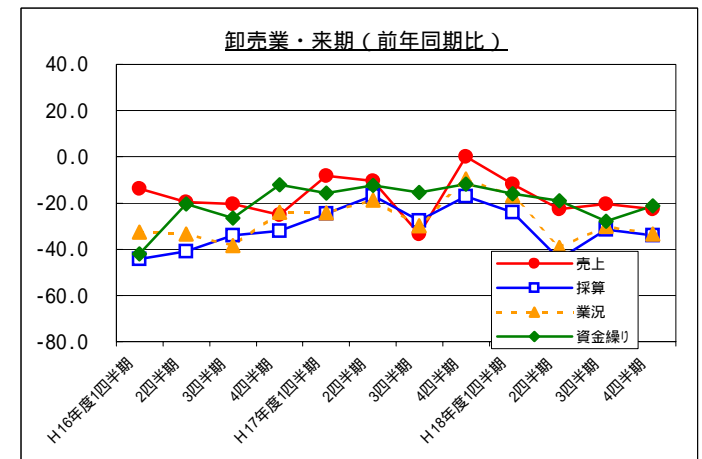
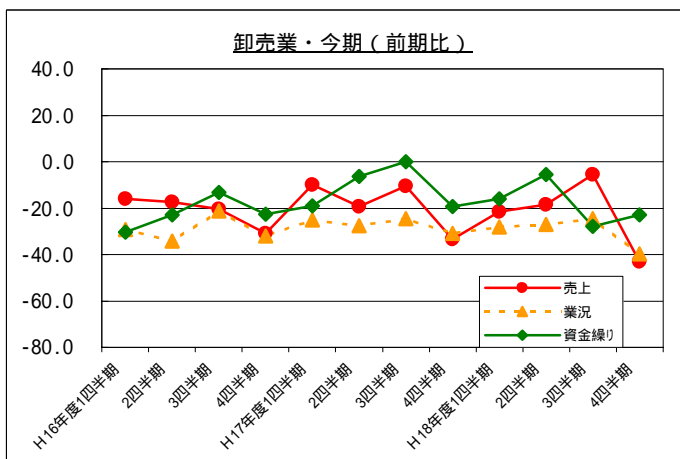
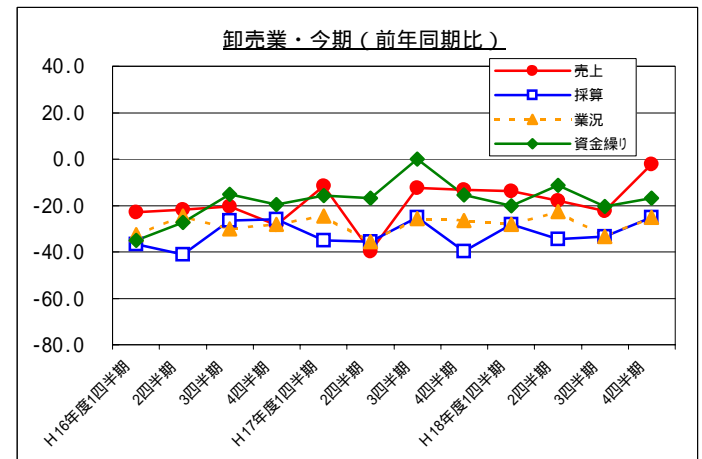
来期の見通しについては、すべてのDIが改善しており、18ポイント上昇した売上DIはプラスに転じた。



(3) 卸売業

今期は、前年同期比では、すべてのDIが改善しており、20ポイント上昇した売上DIは、平成14年度の調査開始以来で最もマイナス幅を縮小した。前期比では、売上DIが37ポイント悪化し、各DIはマイナス42～マイナス23となっている。

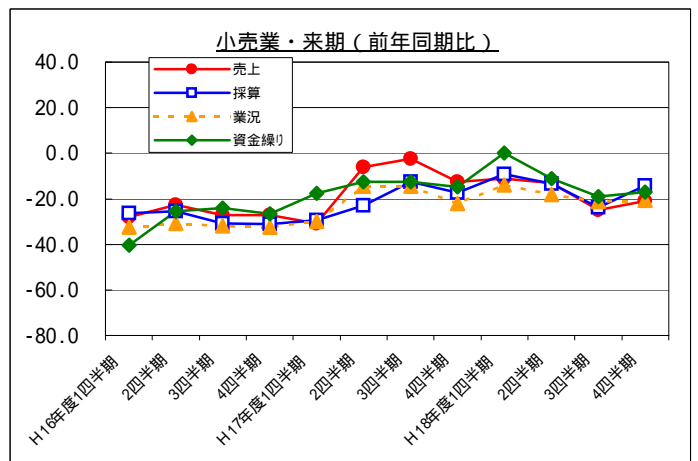
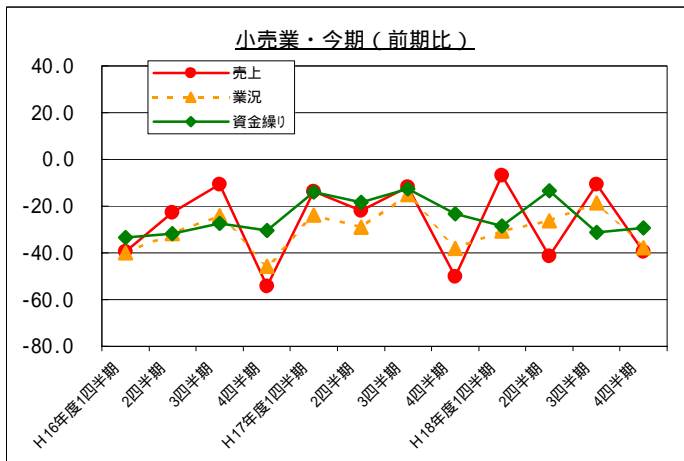
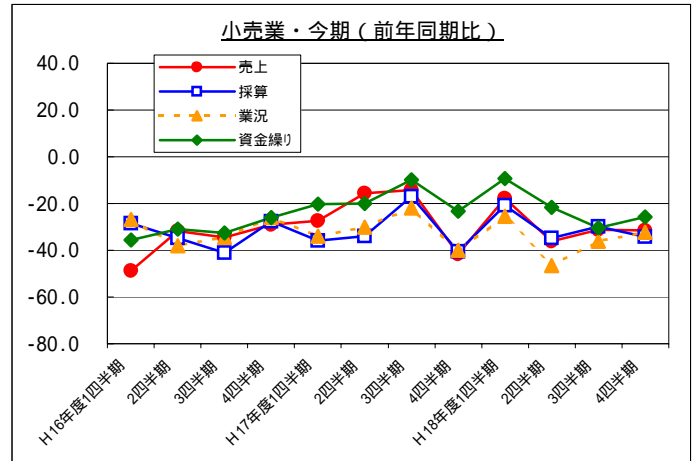
来期の見通しについては、売上・業況・採算DIがやや低下しているが、資金繰りDIは6ポイントの上昇となった。



(4) 小売業

今期は、前年同期比では、4ポイント低下から4ポイント上昇の幅で推移し、各DIはマウス34～マウス25と横這い傾向にある。前期比では、売上DIにおいて改善と悪化を繰り返す傾向が見られ、今期は28ポイント悪化のマウス39となった。

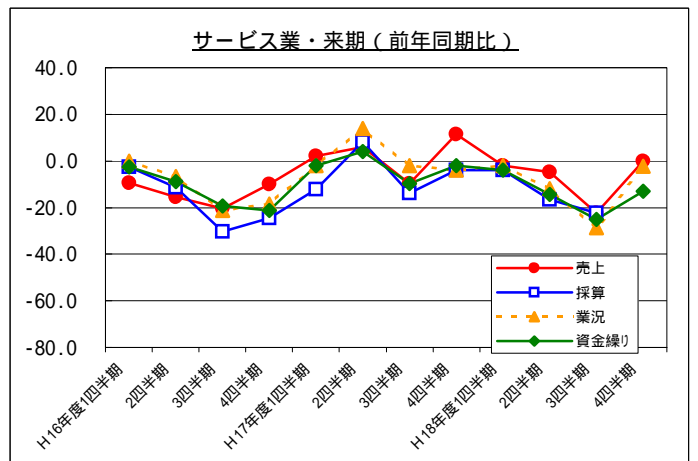
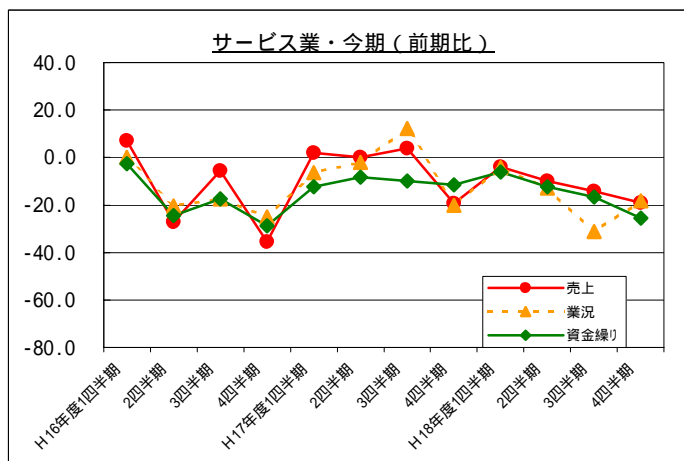
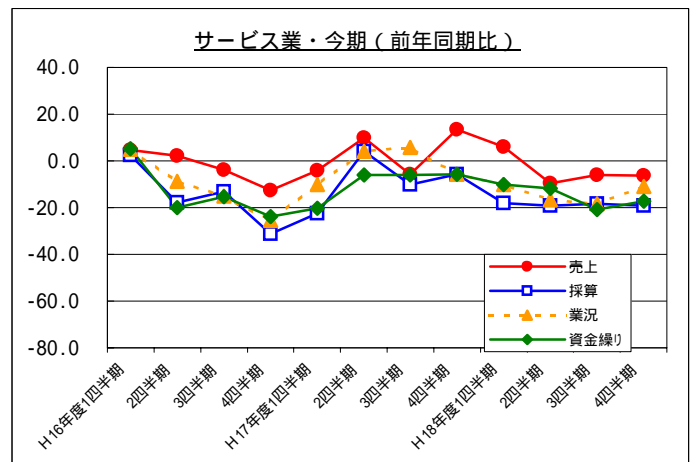
来期の見通しについては、各DIともに改善し、各DIはマウス21～マウス14となっている。



(5) サービス業

今期は、前年同期比では、売上・採算DIがわずかに低下したものの、業況・資金繰りDIは3～7ポイント改善している。前期比については、業況DIが13ポイント改善し、各DIはマウス25～マウス18となった。

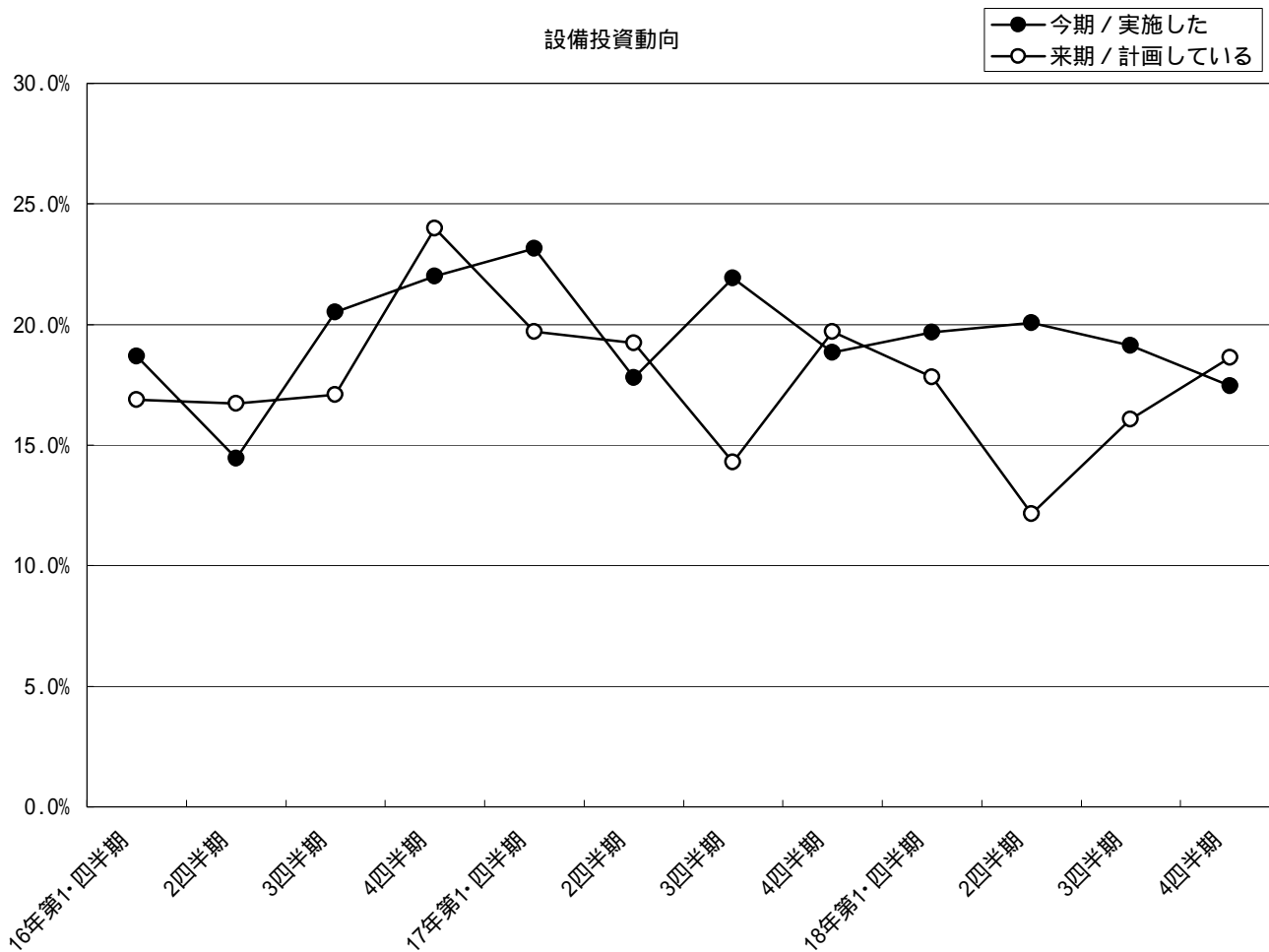
来期の見通しについては、すべてのDIが12～26ポイント改善し、22ポイント上昇した売上DIは3期ぶりにマイナスを脱した。



4. 設備投資について

今期は、設備投資を実施した事業所は17.4%（前回19.1%）、来期に設備投資を計画している事業所は18.6%（同16.1%）と前回調査から横這いに推移している。

		今回		前回	
		事業所数	構成比(%)	事業所数	構成比(%)
今期	実施した	41 (235)	17.4	52 (272)	19.1
	実施していない	194 (235)	82.6	220 (272)	80.9
来期	計画している	44 (236)	18.6	44 (274)	16.1
	計画していない	192 (236)	81.4	230 (274)	83.9



5. 経営上の問題点（業種別）

今期は、「請負、製品、販売単価・利用料金の低下・上昇難」がすべての業種で、又、「需要の停滞」が4業種、及び、「材料価格・仕入単価の上昇」も3業種で、上位3位以内となっている。業種別では、上記問題点の他、小売業・サービス業で「消費者・利用者ニーズの変化への対応」が引き続き上位にランクされている。

経営上の問題点（複数回答）

業種	事業所数	問題点	回答数	構成比	前回順位	前回構成比
建設業	59	1位 請負単価の低下・上昇難	37	62.7	1位	54.0
		2位 官公需要の停滞	22	37.3	2位	41.3
		3位 材料価格の上昇	20	33.9	3位	39.7
製造業	58	1位 原材料価格の上昇	33	56.9	1位	50.0
		2位 製品(加工)単価の低下・上昇難	20	34.5	2位	37.1
		3位 需要の停滞	18	31.0	3位	24.3
卸売業	49	1位 需要の停滞	23	46.9	1位	46.3
		2位 販売単価の低下・上昇難	21	42.9	3位	37.0
		3位 仕入単価の上昇	20	40.8	2位	42.6
小売業	40	1位 販売単価の低下・上昇難	18	45.0	1位	41.7
		" 消費者ニーズの変化への対応	18	45.0	2位	35.4
		3位 需要の停滞	17	42.5	2位	35.4
サービス業	47	1位 利用者ニーズの変化への対応	17	36.2	1位	38.8
		2位 新規参入業者の増加	12	25.5	2位	24.5
		" 利用料金の低下・上昇難	12	25.5	4位	22.4